報道関係者各位

プレスリリース

2026年3月9日

千株式会社

【東日本大震災から15年：園の防災・減災に関する実態調査】

避難訓練の実施率は99.6%。今後は「本番想定の工夫」がより重要に

～物資備蓄の拡充が進む一方、子どもの「心の安定」を支える対策にも関心～

写真と食の力で子どもの幸せを創ることを目指す総合保育テックサービス「はいチーズ！」を提供する千株式会社(本社：東京都千代田区、代表取締役社長 千葉伸明、以下 当社)は、このたび2011年3月11日に発生した東日本大震災から15年の節目を前に、園児を取り巻く防災・減災に関する実態調査を実施いたしました。

調査の結果、2018年の指針改定を経て、避難訓練の実施やインフラ備蓄といった「ハード面」の対策は着実に定着している現状が伺えました。あわせて、実際の被災シーンを想定した際の対応に課題を感じている園が6割にのぼることや、お菓子やおもちゃ以外の「心の安定」を支える具体的な備えについては、約4割の園で「特になし」という回答結果も見受けられました。

はいチーズ!®

【園での防災/減災対策実態調査】

訓練99.6%。6割強が「本番の備え」意識

インフラ備蓄は拡充。「心のケア」への備えが新しい視点に

65.9%がお昼寝時などの「人員不足時の対応」を懸念

「非常食の試食」や「重量確認」など本番想定の工夫が進む

調査の背景

2026年3月、東日本大震災から15年を迎えます。また、2024年の能登半島地震から2年が経過しました。近年未曾有の大災害を相次いで経験する中で、園における防災対策は2018年の保育所保育指針改定を経て、各園で積極的な取り組みが行われています。

一方で被災地での「大切な写真や思い出が失われた」という声や「避難生活における子どもの精神的なケア」の大切さも広く知られるようになりました。当社は日頃より園運営の現場に接する立場から、各園がどのような防災・減災の工夫を行っているのか、その実態や知見を広く共有することを目的に本調査を実施いたしました。

調査結果のトピックス

■避難訓練の実施率は99.6%が実施。あわせて6割以上の園が「本番への備え」を意識する現状

■連絡手段や電源確保などの「インフラ備蓄」が拡充。「有事に本当に動けるか」という実用性を重視する傾向へ

■物資の備蓄が進む一方、子どもの「心の安定」を支えるソフト面の対策はこれからの検討課題に

■自由回答から、物資以外の「心の安定」を支える備えへの関心もうかがえる結果に

調査結果トピックス詳細

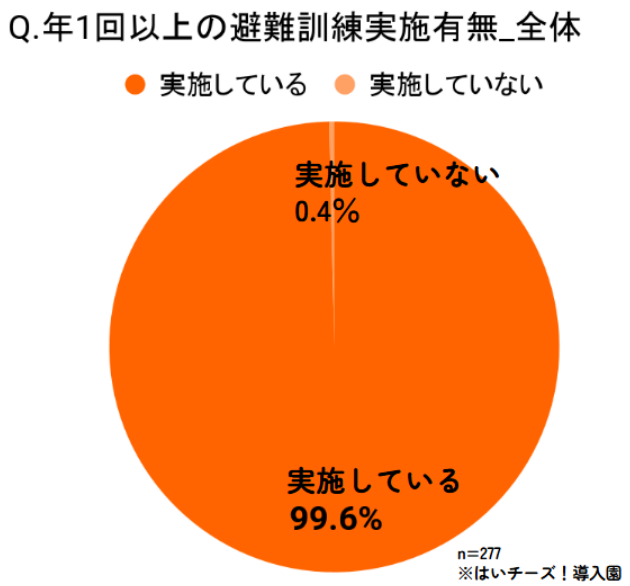
1.　避難訓練は「定例化」から「本番想定の工夫」を重視する傾向へ

年1回以上の訓練実施率は99.6%に達し、園の防災活動として定着していることが分かりました。。一方で62.7%の園が「実際の災害を想定すると不安がある」と回答しており、今後は有事の際にスムーズに動けるよう、より具体的なシーンを想定した工夫が求められそうです。

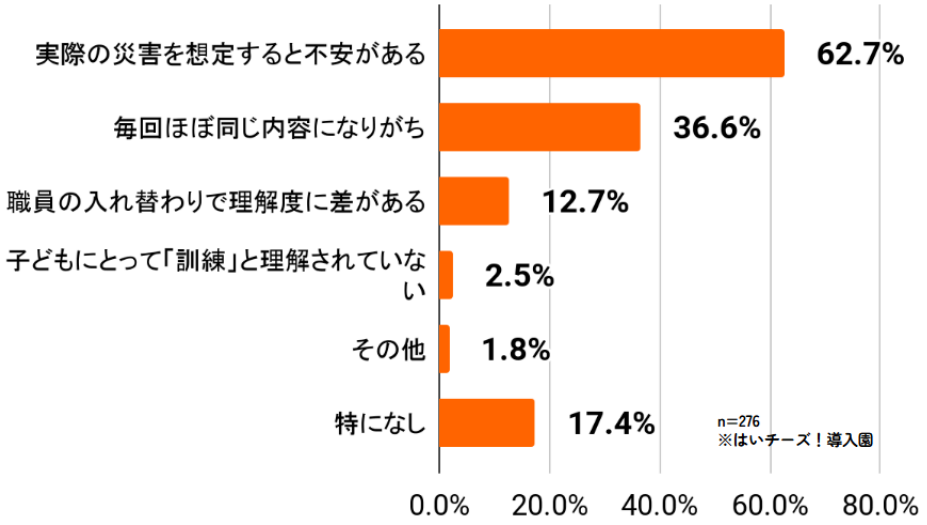
【東日本大震災・被災園の証言】「訓練が完璧でも、本番は頭が真っ白になる」

本調査にあたり、岩手県釜石市で震災当時から園を運営する園長にインタビューを行ったところ、「訓練と実際の避難は全く別物。**震災を経験し普段から訓練を重ねていても、いざ大音量のサイレンを聞くと足がすくみ、何を持つべきか分からず頭が真っ白になった。訓練が完璧でも本番では何もできなくなるという怖さを知ってほしい。**」と語っていました。

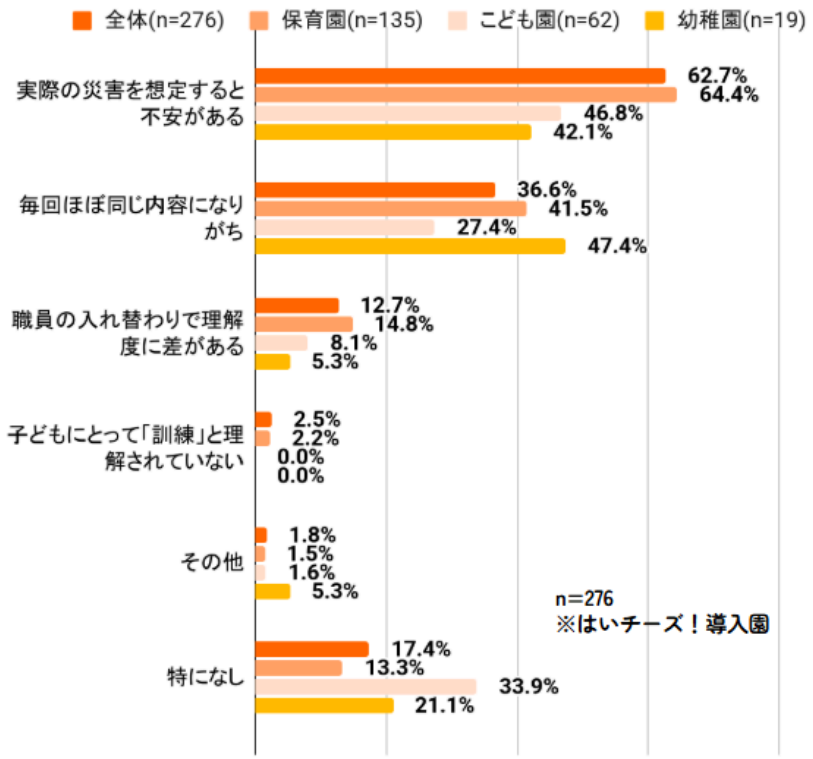
このエピソードからは、多くの園が感じている「本番への不安」の背景が伺え、形式的な訓練だけでなく実効性を高めるための備えの大切さが伝わってきます。



Q.避難訓練の「運用面」での課題や不安_全体



Q.避難訓練の「運用面」での課題や不安_施設種別



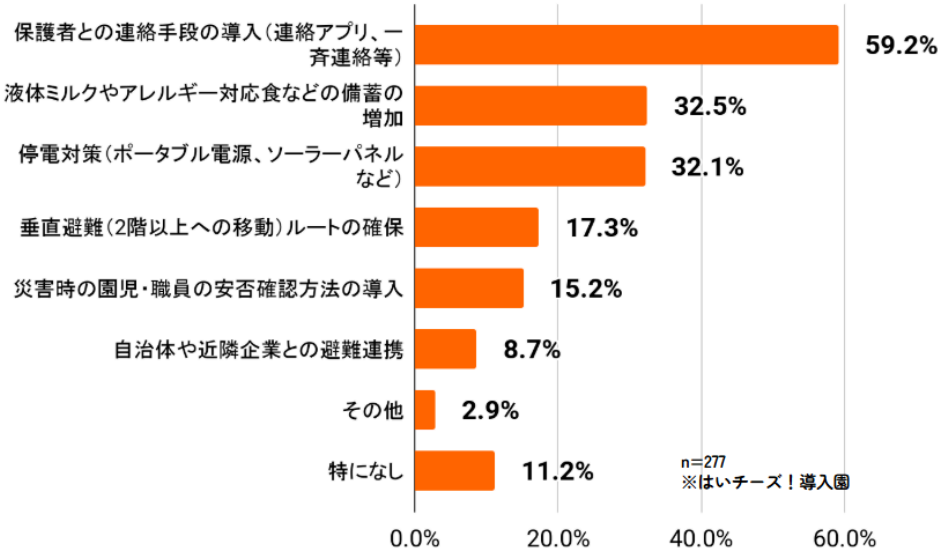
2. 拡充する「インフラ備蓄」：背景に震災経験と実効性へのこだわり

直近5年で新しく取り入れた対策では「保護者との連絡用アプリの導入（59.2%）」が最多となり、次いで「液体ミルク等の備蓄（32.5%）」「停電対策（32.1%）」とハード面の強化が顕著です。

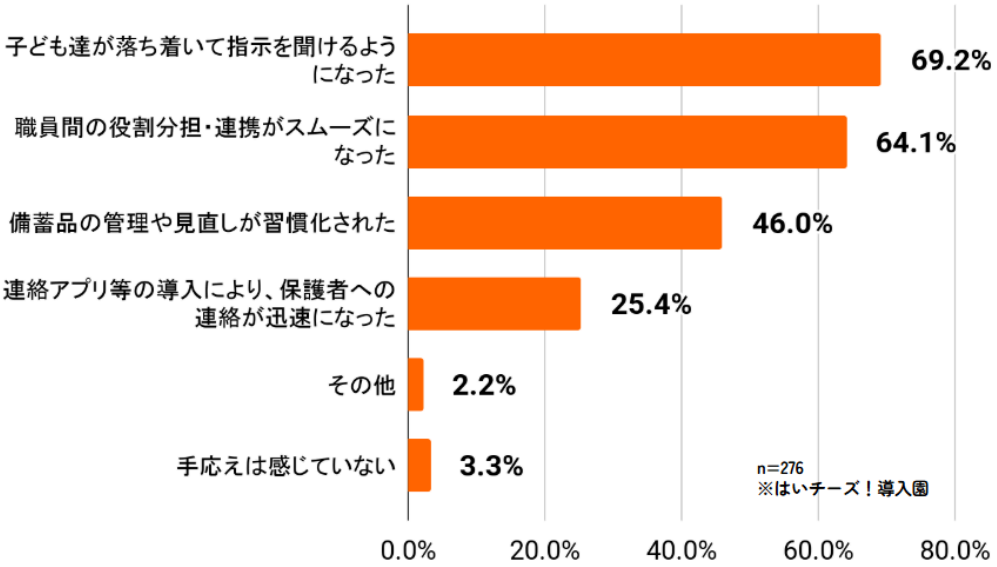
その結果、手応えとしては「連絡の迅速化」などを実感する園が増えるなか、さらなる対策が必要だと感じる項目では「停電や断水などのインフラ停止時のシミュレーション（72.8%）」に次いで「職員の配置人数が少ない時間帯の対応（65.9%）」が上位に挙がりました。

自由回答（5章参照）からは「蓄電池だけでなく、カセットボンベの発電機や汚水桝用テントを用意した」といった具体的な備えが進む一方、「バックが重すぎて避難誘導がスムーズにいかなかった」などの訓練での気づきを活かした実効性の追求も見られました。

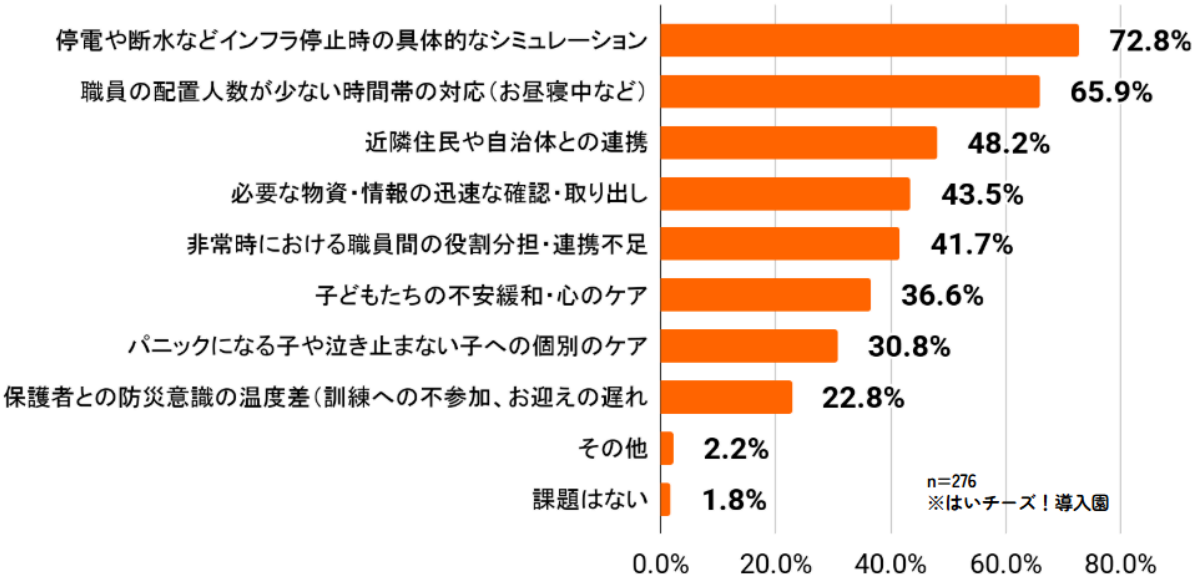
Q.直近5年で取り入れた/強化した対策_全体



Q.防災対策や避難訓練で「手応え」を感じていること_全体

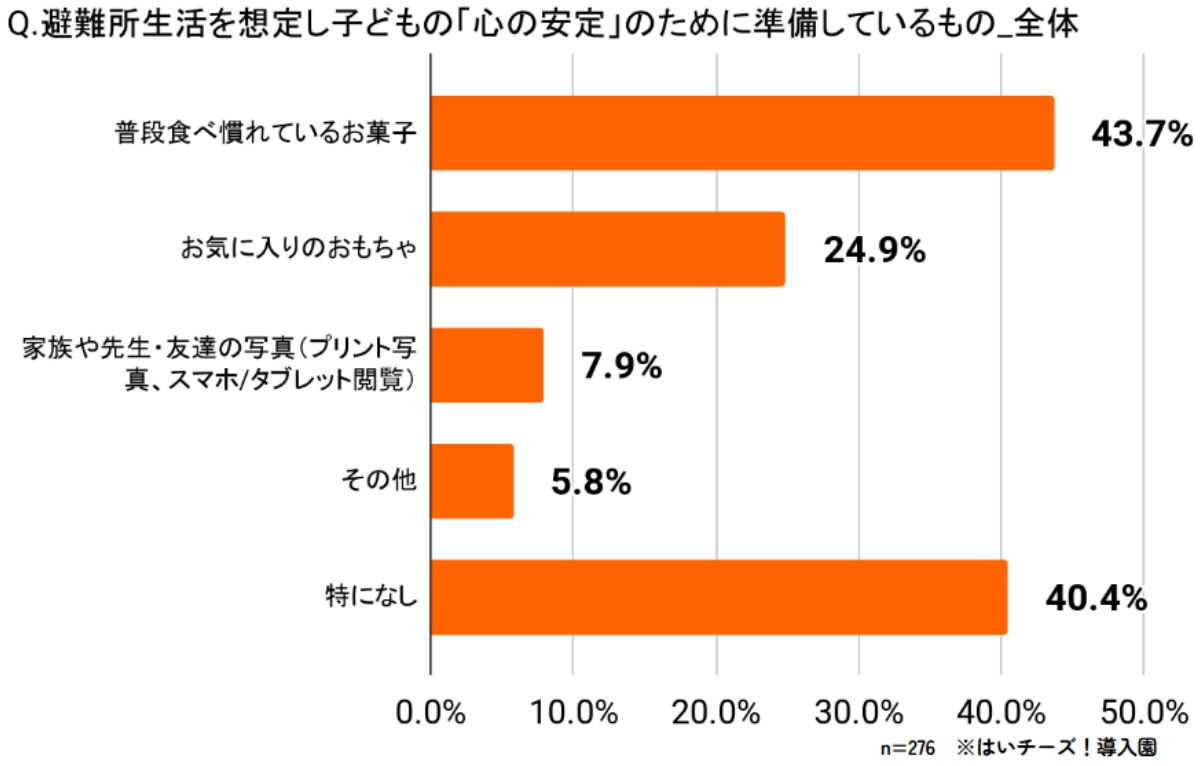


Q.さらなる対策が必要だと感じること_全体



3. 「命を繋ぐ備蓄」に加え、新たに見えてきた「心の安定」への視点

物理的な備蓄が進む一方で、避難生活における子どもの「心の安定」のための備えについては、園によって対応状況が分かれました。現在準備しているものは、お菓子（43.7%）やおもちゃ（24.9%）が中心となっています。一方で、これら以外の具体的な対策については「特になし（現時点での備蓄はない）」という回答が40.4%となりました。



【東日本大震災・被災園の証言】「寄り添う」ではなく「くっついて」命を守った夜

被災した岩手県釜石市の園長は、避難所での3.11の夜をこう振り返ります。

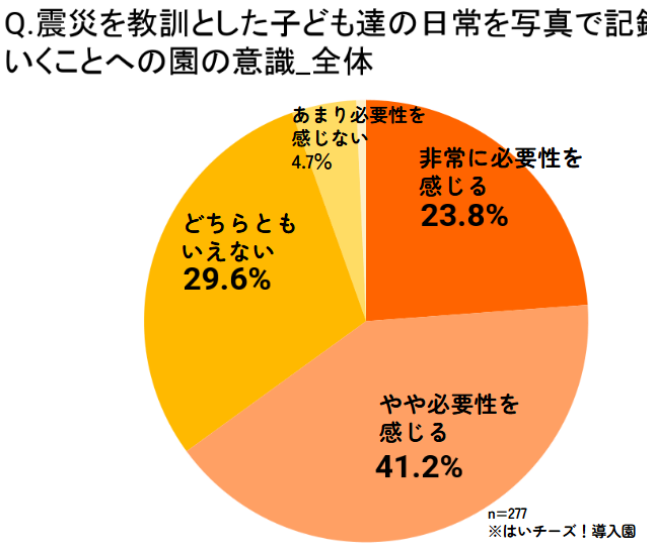
「震災当日の夜は激しい余震が続き、『寄り添う』という次元ではなく、物理的に『職員ひとりが子どもひとりとぴたっと隙間なくくっついて』、命と命を重ねるようにして守り抜いた。あの日は着替えと布団を持っていくことで精一杯だった。」

究極の状況下では、保育者の存在そのものが子どもの最大の安心材料となります。しかし、その保育者自身の「手」が足りなくなる過酷な避難生活においては、子どもの不安を和らげる「心の備え」をあらかじめ準備しておくことも一つの大切な視点かもしれません。

---

4. 震災を教訓に、日常写真を「残す」必要性を感じる園が半数以上

大規模災害時の写真消失報道を受け、半数以上の園が「子どもたちの日常を写真で残しておくこと」の必要性を実感していることが分かりました。本調査では、避難訓練や備蓄といった物理的な備えに加え、日常の記録をどのように残していくかについても、園の関心が一定程度あることがうかがえる結果となりました。
本章では、災害時の対策を提言するものではなく、震災を教訓とした園の意識の一端として、この結果を共有します。



5.【自由回答】備蓄のアップデートと訓練の多角化。本番を想定した「命を守るための具体的工夫」が加速

自由回答からは、単に「物を置く」だけでなく、実際に試食したり、避難時の重さを体感するなどの一歩踏み込んだ「実用性の検証」を行う園が増えていることが伺えます。

■防災対応や避難訓練を行う中で、「事前に準備しておいてよかった」「もっと準備すべきだった」と感じることについて自由意見TOP3カテゴリーと代表的なコメント（一部抜粋）

1.備蓄品（物資・電源・トイレ）の拡充（44.9%）

・東日本大震災の際蓄電池設備が足りなかったのでソーラーやカセットボンベの発電機を導入。汚水桝に直接排泄するためのテントや便座も用意した。

・職員のヘルメットの数や持出袋の数を増やした。ポータブル電源の数も増やしている。

・簡易トイレ対応数を増やした。備蓄用のミルク、食料、おむつなどはまだ十分でないと感じる。

2.訓練内容の高度化・多角化（26.5%）

・地震・津波・水害・火災・不審者などテーマを決め行い、その都度反省点を書き出し次回の訓練へ活かしている。

・いかに命を守るかの訓練を推奨している専門家の先生に定期的にご指導いただき強化している。

・浸水などの水害についての行動や準備、不審者対策訓練なども実施しているが、多忙で予定通り実施できない時もある。

3.職員の体制・連携・スキル向上（20.4%）

・特に0歳児～1歳児の避難時にはどの職員がどの子につくのかを大体決めておくとよい

・職員との反省会をすることで、その都度問題解決に役立った。

・蓄電池のやり方や備蓄品のことなど1年に1回研修をしているが、まだ把握していない職員もいるので様子を見て進めていきたい。

4.その他のコメント

・非常食を正しく使えるか不安だったので、実際の災害時を想定した試食会を保護者と園児と一緒に行った事がとても良かった。

・避難の際、防災バックが重すぎて避難誘導がスムーズにできないことが反省に上がった。

本調査により、東日本大震災から15年を経て、園における避難訓練の実施や物理的な備蓄、連絡網の整備が定着していることが確認されました。あわせて、実際の被災シーンを想定した備えを意識している園が6割にのぼることや、避難生活における子どもの「心の安定」を支える対策についてはお菓子やおもちゃ以外の具体的な備蓄は「特になし（現時点ではない）」とする回答が約4割にのぼることもわかりました。。また、自由回答からは、備蓄品の見直しや訓練内容の工夫、職員体制の整備など、各園が日々の運営の中で備えを見直し続けている様子もうかがえました。

今後もこうした園の実態と具体的な取り組みを共有することで、各園における防災・減災の取り組みを考えるうえでの参考としていただくことを目指しています。

調査概要

調査方法　：はいチーズ！導入園へのWebアンケート調査

調査対象者：はいチーズ！導入園277園

調査期間　：2026年2月9日～18日

≪はいチーズ！とは≫

「はいチーズ！（https://sencorp.co.jp/service）」は『こどもにピース』をコンセプトに、保育園・幼稚園など子どもを預かる施設や保護者ととも

に子どもの幸せを育むことを目指す、総合保育テックサービスです。
運動会や発表会など季節行事の写真撮影から販売、問い合わせ対応まで、トータルでサポートする写真に特化したインターネット写真販売「はいチーズ！フォト」をはじめ、保育ICT「はいチーズ！システム」、アルバム制作「はいチーズ！アルバム」、動画撮影「はいチーズ！ムービー」で子どもの記憶や記録を残し、給食・食育サービス「はいチーズ！ベジ」では子どもの健やかな成長を支援します。未来ある子どもたちの人生がより豊かで幸せに溢れたものになるように、心と身体の両面へアプローチするサービスを提供しています。

≪千株式会社 会社概要≫

代表取締役社長：千葉伸明
本社 ：東京都千代田区紀尾井町1番3号
　　東京ガーデンテラス紀尾井町　紀尾井タワー14F
設立 ：2004年10月
HP　：https://sencorp.co.jp
はいチーズ！は、千株式会社の登録商標です

メディアの方からの問い合わせ先
千株式会社　広報担当　吉武、椛沢
TEL：03-6266-6662　メール：sen_pr@sencorp.co.jp